

Do CL Column

普通は、まだ遠く、前よりもずっと近く
—CL を実践し続ける生徒さん—

なかた かなえ



2018年5月20日

「どうしてそんなに障害、障害と言うの？意識し過ぎじゃない？」母の言葉に一発パンチを食らったような顔をした私は黙った。

昔から私は、自分のことを障害がある人だと言って、それが苦しいんだと、とりわけ母にはよく嘆いていた。

それが先日、母から私にとっては、痛烈に指摘された。それから物凄く考えた。

図書館の人達は、私が障害者だから優しくするのだ、だから、私は甘えて良い。周りより適当でも良い。どこかでそんな風になんか甘えに固まりかけていたと気付いて、自分に少し怖くなった。

障害者、と自分に名前を付けることで、なかたかなえがいなくなってしまうのだ。

私の周りで私について起こる出来事は、私が私だから起きるという事実をいつも自分で自分に課さなければ、痛みを鈍くあやふやにすると同時に、自分が自分だという喜びが、いつの間にか消えてしまう気がする。

それから図書館で相変わらず働いていると、まるで景色が違って見えた。視界が晴れたようにだ。入社してから誰が私を障害者と呼んだか？誰が病気を理由に私を下にみたか？誰もそうは見えていない。皆障害者に笑顔に向けてくれていた訳ではない。障害者を心配していた訳ではない。いつも中田さんに笑顔に向けてくれた。いつも中田さんを心配してくれた。中田さんに仕事を与えてくれていたのだ。心のどこかで捻くれていた事を、皆にどこかで見抜かれてしまうような言動もしていたように感じる。それでも相変わらず、皆は私に優しく、仕事はそこにあって、そこは私の職場だった。

覚えようとしなかった図書館用語が沢山ある。それは私の未知なるのびしろかも知れない。ありがとう。自分から掴んで行きます。

家、母、私の原動力

7月9日

アパートを訳あって引き払って一度家に帰った。暫く経って、このまま家にずっと住もうかなー？と甘えた調子で母に聞いたら、母は少し渋って、「出て行かなきゃダメだ」と言った。私は物凄くショックを受けて、悲しくなったし、大暴れしたいような、三歳児の様な衝動に駆られた。母は私が口ごたえしたり、私と喧嘩するのが嫌で出て行って欲しいんじゃないかと、布団に潜って泣き言を親友にメールした。すると、友達は、「違うよ中ちゃんの為を思ってだと思えよ」と返して来た。

母の側に近づくと、母はゆっくりと言った。

「この家にずっと居たら、家事も、お金の事も、何もかもお母さん任せになる。それはもう今の香菜恵の為にならない」と言ったのだった。私はこんなに驚いたことってあったかなと言うくらい驚いた。

これ以上の私に対する母からの信頼の示し方が有るだろうかと感じた。

高校生の時、精神科に緊急入院して、本当に何もかも出来ないし、分からなくなった時、母が、家で食事の支度をしていると、5人分お皿を間違えて出してしまうんだよ。と私に言った。その瞬間、家の食卓の光景が頭に飛んで浮かんで、ガッと現実に導かれた。そこからが私の再出発だった。帰る家に向かって元気になったし、住む家と共に元気になった。

「絶対に一人暮らしなんてだめだよ」と言っていた時もあった母が、一人暮らししなさいというまでの道のりが辛いことではなく、明るい海を泳いで来たかの様に幸せに力強く、心地良く思う。母をいつだって頼りにし、尊敬して来た。

泣くには乏しいし、笑うには苦い気持ちがして、私はすぐその場でスマホのアプリをダウンロードして、新しい引っ越し先を探し、お金を貯める計算を始めた。

因みにもう私は先週から新しいアパートで一人暮らしを再開しました。しっかり頑張りまーす。

色々あるけれど

7月16日

色々あるけれど、それを自分だけ特別な苦しみに直面している。と、自分だけ特別を取る必要がある気がしました。

友達が、会社で物凄く理不尽で非人道的な目に遭った話を私にしたのですが、その話が私だったらもっと人に当たるかの如く怒って話してしまう内容だったのです。なのに彼女は、(彼女が自分がどう振舞っているか自覚しているいないに関わらず)自分自身だけに目を向けるのではなく、私の気持ちにも配慮して自分の感情を話しているのを目の当たりにして、自分の足りないところに気付きました。私は理不尽なことがあると、すぐに私は特別可哀想！と周りに理解して貰わなければ気が済まない困ったところがありました。感情には責任はないけれど、感情を言葉や態度に変えて周りを巻き込むのは、全く持って自分中心なのだ。と気付いたのです。人には人の、その人ならではの苦しみや葛藤や切なさや色々な気持ちが有って、大人とはそれを内包しながら日常を生きることなのだとも思います。

彼女は何処となく気品のある雰囲気なのは、そういう訳か…可愛いし、羨ましい。と言う気持ちも内包しながら、食べ物をこぼさないように目の前のローストビーフを切り分けたのでした。

(千葉県千葉市CLインストラクター/小木晴代：相談室「ターゲイズ」 h-ogis8dochl@tbz.t-com.ne.jp)

 [目次へ戻る](#)